琉球大学学術リポジトリ

琉球列島より発見された藻類共生性ネンエキボヤ属の2未記載種

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム
	公開日: 2009-04-16
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 広瀬, 裕一, 岡, 篤, Hirose, Euichi, Oka, Atsushi T.
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/9828

PS-2　琉球列島より発見された藻類共生性ネンエキボヤ属の2未記載種
(Two undescribed species of photosymbiotic *Diplosoma* species from the Ryukyus　(Chordata,Ascidiacea, Didemnidae))

広瀬裕一 (Euichi Hirose)[1]・岡 篤 (Atsushi T. Oka)[2]

[1]琉球大学理学部海洋自然科学科
[2]名古屋大学博物館（現所属　ユナイテッドテクノロジー株式会社）

ネンエキボヤ属 (*Diplosoma*)はジデムニ科ホヤの1属で、世界に広く分布するが、　熱帯・亜熱帯域に分布する種では、藍藻（プロクロロン）と共生するものが多く知られている。本邦では共生藻を持たないネンエキボヤ（*Diplosoma mitsukurii*）が日本全土に広く分布する他、共生藻を持つものが琉球列島および小笠原諸島より、計5種（*D. ooru, D. simile, D. simileguwa, D. variostigmatum, D. virens*）が報告されている（時岡が1954年に記載したミドリネンエキボヤ*D. midori*は、*D. simile*または *D. virens*新産シノニムとして扱う：Oka & Hirose, 2008）。この共生性ネンエキボヤのうち3種は、近年我々が新種記載したものであるが、まだ琉球列島には未記載が存在すると期待される。

共生性ネンエキボヤの種分類に用いられる形質として、「鰓嚢に4列ある鰓孔の各列の鰓孔数」と「牽引筋の分離位置」があげられる。また胚の付着突起数なども形質として利用されるが、群体が必ず胚を含んでいるとは限らないのが難点である。今回発見された*Diplosoma* sp. Aの鰓孔数は上から"6, 7, 6, 5"で稀に"6, 7, 6, 4"のものがある。また、牽引筋は胸部より分離する。この鰓孔数パターンは、鰓孔数が安定している種ではこれまでに報告がないもので、本種は未記載種であると考えられる。*Diplosoma* sp. Bの鰓孔数は上から"5, 5, 5, 4"で、牽引筋は食道より分離している。また胚は12～16の付着突起を備える。本種の鰓孔数パターンは*D. multipapillatum*の"5, 5, 5, 5" に似るが、*D. multipapillatum*の胚は約30の付着突起を持つことで区別できる。

これまでに、*Diplosoma* sp. Aは種子島、中之島、宮古島、石垣島で確認され、*Diplosoma* sp. Bは中之島、宮古島、八重山諸島で確認されている。いずれも琉球列島に広く分布していると考えられ、このエリアでの本属の分類学的研究が未熟な段階であることが示唆される。